

# 学生に望む

---

学 長 小 原 芳 明

玉川の丘での大学生活が始まりますが、大学はより高度で新しい知識を修得する機会です。そのために多くのリソースが集積されていますから、各人の将来の夢を実現することに活用してください。

これからも日本社会の高学歴化は進みますが、併せて学士取得も社会進出の必要条件となります。しかし、それだけでは充分とは言えません。これからは教育を受けた年数や修得した単位数の多少だけでなく、どれだけクオリティーの高い知識と技術を修得したのかが問われる時代です。それは社会が付加知識と付加技術と認める質的尺度で評価される時代だからです。そのための学習をより高めるための手段に5つのW (what, when, where, why, who) と1つのH (how) があります。大学での学びの道は厳しいものですが、その厳しさを乗り越えてこそ社会の評価を得られます。

高等学校では、知識を一方通行的に受け入れる学習が主でしたが、大学では学生が主体となって必要な知識を積極的に修得していくことが鍵です。例えば、大学は1時間の授業に対して教室外で2時間の学習（予習と復習）を前提としています。本学のBlackboard@Tamagawa（遠隔教育システム）には予習教材だけではなく、次の授業へ向けて準備すべき事柄も提供されています。各授業計画はシラバスに明示されていて、学生がより主体的に学習するようになっています。本学では、そうした大学での学習スタイルに馴染み、勉学を促進するためにF Y E (First Year Experience) という初年次教育を推進しています。

「三位一体の教育」とは徳育、智育、体育の三育並進でもあります。現代日本で活動していくには、一層の自己管理が求められます。その一つに自己の健康と安全確保があります。日本社会の国際化にともない、昔のように「日本の水と安全はタダ」ではなくなってきています。本学の周辺地域でも、昼間から夜への状況変化は著しく、夜は安全と健康とはほど遠い環境へと一変します。ひと時の快楽への誘惑も一段と強くなってきますが、大学生としての自覚と責任を持って行動をとることで自己管理能力も身に付いてきます。

この丘では大学生の他に幼きは3歳の幼稚園児から高校生までの玉川っ子たちも一緒に学習しています。そうした玉川の教育環境を踏まえ、今日から最高学府に学ぶ者としての自覚、誇り、そして責任を持ってこの丘での生活を送ってください。